



令和 7 年 5 月 2 0 日
海 上 保 安 庁

SAPPHIRE25 練習船いつくしま遠洋航海における 日米海上保安機関合同訓練(結果概要)

～自由で開かれたインド太平洋の実現に向けて～

海上保安庁及び米国沿岸警備隊は、現地時間令和 7 年 5 月 14 日（水）、米国サンフランシスコ沖合において、海上保安大学校練習船「いつくしま」と米国沿岸警備隊巡視艇・航空機による合同訓練を実施しました！

1. 訓練概要

（１）日 時

令和 7 年 5 月 14 日（水）午後 1 時 00 分から午後 2 時 00 分まで（現地時間）

〔5 月 15 日（木）午前 5 時 00 分から午前 6 時 00 分まで（日本時間）〕

（２）場 所

米国サンフランシスコ沖合

（３）参加勢力

○海上保安庁

練習船「いつくしま」

（搭載艇 2 隻を含む。）

○米国沿岸警備隊

47ft MLB（Motor Life Boat） 1 隻

固定翼機（C27） 1 機

（４）訓練内容

通信訓練、救助訓練



練習船「いつくしま」



47ft MLB



固定翼機（C27）

2. 訓練結果

本訓練を通じ、日米海上保安機関双方の情報伝達の方法や、海難救助にかかる一連の活動を確認し合い、必要な技術・知見を共有しました。また、本訓練は、遠洋航海中の海上保安大学校練習船「いつくしま」の米国寄港にあわせて実施したものであり、実習生にとって、外国の海上保安機関との連携・協力の重要性を学ぶ貴重な機会となりました。

今後も海上保安庁は、日米海上保安機関の共同取組である「SAPPHIRE（サファイア）」を通じ、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて、米国沿岸警備隊との連携・協力を推進します。

<訓練の状況>



無線通信中の実習生



打ち合わせを実施する日米実習生



行方不明者を検索する実習生



併走するいつくしま搭載艇・47ft MLB



MLB に接舷するいつくしま搭載艇



MLB 乗組員・日米実習生記念撮影

3. 参考

○訓練に至る経緯

- ・日米の海上保安機関である海上保安庁及び米国沿岸警備隊は、1948年の海上保安庁創設期より深く交流しており、2010年には、協力覚書「海上保安庁と米国沿岸警備隊との間の覚書」を締結し、様々な機会を通じて、連携・協力の強化を図ってきました。
- ・近年、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて、法とルールの支配に基づく海洋秩序の維持・強化にかかる取組を推進するにあたり、日米の海上保安機関の連携・協力は、より重要になってきております。このため、2022年には、協力覚書に新たに付属文書を作成・署名し、共同オペレーションや合同訓練等を更に促進しているところです。
- ・こうした日米の海上保安機関の共同取組を「SAPPHIRE（サファイア）」と統一的に呼称し、一層の連携・強化を図っているところ、今回の訓練はこの一環となります。

○SAPPHIRE（サファイア）

「Solid Alliance for Peace and Prosperity with Humanity and
Integrity on the Rule-of-law based Engagement」

「法の支配の取組における誠実と仁愛に基づいた平和と繁栄のための強固な連携」

○令和7年度練習船いつくしま遠洋航海の概要

- ・海上保安大学校では、実習生に初級幹部として必要な知識、技能を習得させるとともに、精神力、実践力及び統率力の練成を図り、国際感覚を養うため、毎年、遠洋航海を実施しています。本年度は練習船「いつくしま」就役後初となる遠洋航海です。
- ・令和7年度の遠洋航海では、サンフランシスコ、ホノルル、マジュロ、シドニー、チェンナイ及びシンガポールに寄港します。

期 間：令和7年4月25日～同年8月1日（99日間）

総航程：約24,000海里（約44,500キロメートル）

乗船者：実習生51名（うち女性14名）、乗組員等54名（うち女性10名）

○米国沿岸警備隊の概要

- ・国土安全保障省に所属する海上法執行機関であり、本庁内組織のほか、地方組織として太平洋と大西洋の2つの管区方面本部、その下に9つの管区を有しています。
- ・主な任務：法令の励行、航行安全、海難救助、海洋環境保護、国防